

ほんとうに若年男性は草食化したのか

——量的データによる検証——

○成蹊大学

小林 盾

ハーバード大学 メアリー・ブリントン

1 目的

この報告の目的は、「ほんとうに若年男性が草食化し、恋愛に消極的になったのかどうか」を、量的データによって実態把握することにある。出生動向基本調査によれば、結婚数のうち 88.1%が恋愛結婚だった（2010 年）。一方、現代の男性は恋愛に受け身で、ともすれば未婚化の一因となっていると指摘されている（山田・白河 2008）。ただし、これまで量的に検証されたことがなかった。

2 方法

そこで、データとして「2013 年家族形成とキャリア形成についてのウェブ調査」をもちいる（2013 年 3 月実施、成蹊大学研究助成、小林盾代表）。母集団は全国 20～69 歳モニタ 102 万 8263 人、計画標本 2 万 9814 人で、都道府県と男女を人口比例で割りあてた（94 セル）。有効回収数 4993 人、有効回収率 16.7%だった（セルごと回収）。分析では、15 歳以降最初の恋人に着目し、「恋人の有無」「交際内容」を男女別、年齢階級別に比較した。

3 結果

分析の結果、20 代 30 代の若年男性は、それ以上の男性や女性より交際経験が少なかった（図）。交際経験者 4542 人のうち、自分から告白した人、された人は男女とも若年ほど増加した。ただし、告白する側は一貫して男性が上回り、告白される側は女性に多かった。「男性が告白すべき」という告白規範は、強化されているようである。キスと性関係はどちらも、おおむね若年ほど多く、女性が男性を 20 代で逆転して上回った。なお、男女ごとの差、年齢階級ごとの差、交互作用は、どれもおおむね統計的に有意だった（告白した、されたで交互作用が、キスで男女別が有意でなかった）。

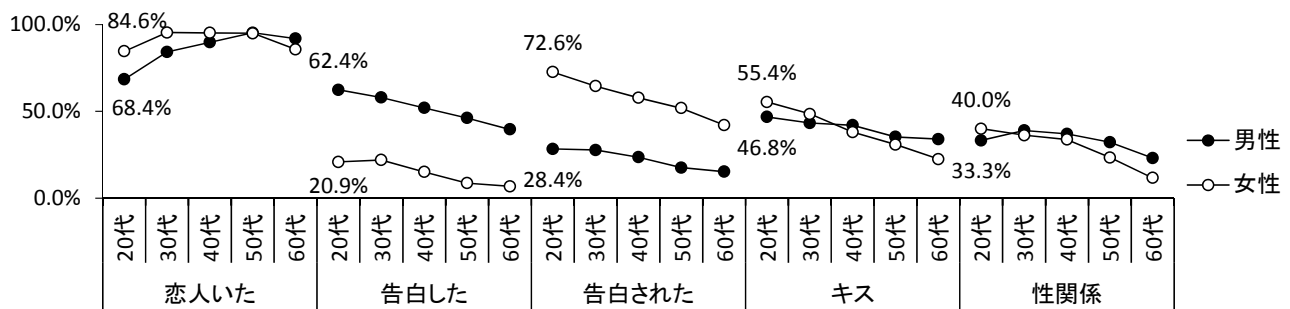


図 15 歳以降最初の恋人の有無、いた場合の交際内容

4 結論

以上から、20 代 30 代の若年男性は、それ以上の男性とくらべても、女性とくらべても、恋人のいた人が少なかった。ただし、恋人がいた場合、自分から告白したり、キスや性関係をもつことは、年配者より増加していた。したがって、若年男性「全体」が恋愛に消極的になったというより、いわば「二極化」し、恋愛における格差が拡大している可能性がある。

文献

山田昌弘・白河桃子, 2008, 『婚活時代』ディスカヴァー・トゥエンティワン。